

部落解放運動が高揚した 1970 年代以降、部落問題に関する研究機関を設置する大学がみられるようになりました。関西大学では、1974 年に部落問題研究室が開設されました。そして 1985 年には、多様化する人権問題に対応すべく、部落問題に加えて、人種・民族問題、障害者問題、女性問題の 4 つの研究班体制からなる人権問題研究室として、改組されました（女性問題研究班は、現在、ジェンダー研究班となっています）。

改組 30 周年に当たる本年、人権問題研究室と同じく、大学における人権問題に関する研究機関である大阪市立大学人権問題研究センターと近畿大学人権研究所のご協力を得て、シンポジウムを開催することになりました。

人権問題の解決に取り組むさまざまな運動の展開にともない、人権概念は広がり、深化してきています。新たな人権課題が可視化されるようになり、人権問題は多様化してきているのです。こうした状況に大学の附置研究機関としてどのように対応しているのか、また、研究機関としての研究蓄積をどのように社会に発信し、学内の教育にどう生かしているのか、3 つの研究機関が互いにそれぞれの研究活動に学び、課題を出し合い、議論を深めたいと考えています。

人権問題や人権教育に関心のある方々のご参加をお待ちしております。

開会
挨拶

吉田栄司
関西大学副学長・教授

パネラー

古久保さくら
大阪市立大学人権問題研究センター長・准教授

奥田均
近畿大学人権問題研究所・教授

石元清英
関西大学人権問題研究室長・教授

司会

加納恵子
人権問題研究室・障害者問題研究班幹事・教授

主催●関西大学人権問題研究室
お問合せ●関西大学人権問題研究室
MAIL=jinkenken@ml.kandai.jp TEL=06-6368-1182

関西大学 人権問題研究室改組 30周年記念シンポジウム

大学における 人権問題研究と人権教育

—大学附置研究機関としての役割と課題について考える—

2015. **11.14** (sat) 13:30-17:30

関西大学千里山キャンパス 第3学舎A201教室

